

2013年(平成25年)9月27日(金曜日)

# 待合所は「カフェ」

北大と  
浦幌町  
コミニバス利用増実験

【浦幌】北大太学院交通インテリジエンス研究室(岸邦宏准教授)と町は、市街地での循環バス(コミニティーバス)の試験運行に併せて、11月に「コミニティーカフェ」の実証実験を行う。

バスを利用して市街地を訪れた高齢者らにカフェを待合所として提供、カフェに「地域のたまり場」としての交流機能を持たせる」と、高齢者らの外出やバス利用を誘導する。

管内では音更や芽室など

コミニバスを導入する自治体が増えている。低料金だが、自治体の限られた財源で運営しているため便数が少なく、利便性ではタクシーに劣り、利用が伸びないなど

の悩みを抱えている。

同研究室では「コミニ

ティーカフェ」をコミニバスと一緒に設けることでバスのサービスを向上させることで、時間を使い過ごせる②地域住民の交流の場ができる③カフェの魅力でバス利用や高齢者の外出を促す

などの効果を見込んでいる。既に胆振管内厚真町と渡島管内松前町で実証実験を実施し、浦幌は3カ所目となる。

(平野明)

コミニバスは10月21日から11月20日まで運行する。実験では、まずコミニバスの利用状況を調べ、11月1日からバスの停留所を設置する市街地中心部のスーパー内にカフェを設ける。利用者の行動変化を調べ、期間の後半はカフェを教育文化センター(町桜町)に移して立地条件の違いも調べる。

期間中はカフェに学生2人が常駐、来訪者に対応し、高齢者と子供が楽しめるゲ

ームなどの催しを検討している。同研究室の岸邦宏准教授は「午後6時から教育文化センターで開かれる「生涯交通を考えるシンポジウム」で「公共交通とまちづくりの連携」と題して講演する。